

令和7年度 第3回綾瀬高等学校学校運営協議会【議事録】

日 時：令和8年3月3日(火)15:30～

会 場：会議室

1 開会(開催の確認)

2 校長あいさつ

入学者選抜が終わり入学手続きと並行して学年末試験が実施される中、特別募集枠の二次募集の準備を進めているところですが、生徒はいつも通り元気に過ごしています。委員の皆様にはお忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日もよろしくお願いたします。

3 協議

(1) 令和7年度 学校目標に係る校内評価報告(後期分)について(各担当総括) ◆資料参照 別紙

①教育課程・学習指導(学習支援 G)

- ・ICT 機器の活用に関しては、ほぼすべての授業で電子黒板を活用している。あらゆる機能を使いこなしているとはいえないが、各教員が必要に応じて電子黒板を活用し、やりたい授業ができています
- ・生徒からの授業評価は、概ね高い評価を得ている。
- ・UD 化についてもしっかり定着してきた。今後も特別募集生徒にかかわらず、すべての生徒が過ごしやすい学習環境を作っていきたい。

②生徒指導・支援(生徒支援 G、生徒会・広報 G)

- ・サポートブックや生活アンケートなどの利用に加えて SC や SSW との面談を通し、生徒の SOS を拾い上げ支援していくスタンスをこれからも継続しながら、教員だけで抱え込まず必要があれば警察や児童相談所など含め地域との連携を広めていきたい。
- ・12月の部活動体験では本校の生徒が中学生に対して丁寧な対応をしている姿を見ることができた。こうした対応が入学後の新入生の部活動加入率を上げることや各活動を充実させることに繋がる。今後もそのような活動を通じて部活動の活性化に努める。

③進路指導・支援(進路支援 G)

- ・昨年度に比べ、総合型に関してはかなり厳しい結果となっている。明確な進路を持っていないと合格は困難。
- ・インターンシップ等の体験を通して、あるいは部活動や学校行事での経験を生かして具体的な話ができるかどうか問われる。目標がはっきりしていないと、合格しても結果的に目指すものと違う

方向に進むことになるので注意していきたい。

- ・短期大学や専門学校は募集停止が増えている。誤った情報に惑わされず総合的な探求の時間や普段の授業学校生活の中で、生徒が将来のビジョンを持った上で進学先を選んでいけるよう継続指導していきたい。

④地域等との協働(学校管理 G、生徒会・広報 G)

- ・学校運営協議会で委員の皆様からいただいた本校へのご意見等をフィードバックしてきた。暖かい応援の言葉をたくさん頂戴できたことはたいへん励みになっている。
- ・1月に綾瀬市のマラソン大会に参加した。今後も参加し地域に貢献していきたい。
- ・部活動の地域との交流については、1年間の取り組みをまとめホームページにアップするのでぜひご覧ください。

⑤学校管理、学校運営(インクルーシブ教育推進 G、学校管理 G、教頭)

- ・生徒対象のインクルーシブ研修会(生徒が、視覚障害や妊婦など、特別な事情を抱えている状況を体験するもの)と新年度に向けて職員対象のインクルーシブ研修も予定している。
- ・どういう生徒を綾瀬高校に送ったらいいのか中学校の先生の認知度を高めるため、積極的に働きかけなければならない。生徒に対応する綾瀬高校職員の経験値は確実に上がっている。
- ・来年度に向け、危機管理マニュアルを整備し、また定期的に校内をチェックし整備補修等している。様々な訓練に関してはなるべく早い時期に実施するよう年間計画を立案中。
- ・働き方改革については、全県の取り組みの中で職員が時間外に電話応答で時間を裂かれないよう電話の自動応答を活用した。
- ・来年度に向けてグループを改編する。新たに研究開発グループを設置しグループ業務の平準化を図る。また業務アシスタントに会計業務を請け負ってもらい教員の負担を軽減する。来年度はそれらの業務が適切に進むか注視したい。

(2) 学校運営委員の皆様からの意見聴取

<委員より>

- ・綾瀬高校の取り組みについて

生徒一人ひとりを大切に卒業まで面倒を見るという姿勢を感じる。

- ・授業改善に教育課程・学習指導について

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために授業改善に取り組み、ICT 機器を活用し発問に工夫をしながら生徒たちにわかりやすい授業を心がけている。UD 化の成果も確実に現れている。

- ・生徒指導支援について

生徒指導や支援の大切なポイントである生徒からの SOS を早期発見・早期指導を実行している。他の機関と連携を図りながら今後も進めて欲しい。情報モラル教育の必要性は益々高まっている。

交通安全教育と同様に続けて欲しい。

・進路指導について

大学の動き始めが早くなっている点から鑑みて、学校の苦勞が垣間見える。大学側の変化を捉えながら今後も準備を進めて欲しい。

・地域との協働について

地域に積極的に出て行き、開かれた学校づくりを目指している。活動に関しては HP で公表し地域から信頼される学校づくりを目指して欲しい。

Q 綾瀬市の駅伝大会についてもう少し詳しく知りたい。

A 1 月 18 日実施され、陸上部 野球部 テニス部 教員チームが参加した。

Q 神奈川県の実験能力テストの結果が懸念される。綾瀬高校の体育の授業では、マラソンなどの取り組みをしているか。

A 長距離走を実施している。昨年までは敷地外を走っていたが、安全面を考えて今年度からは 1 回の授業で敷地内を 3 キロ程度走っている。

・学校管理、学校運営について

インクルーシブ教育に関する研修はその一つ一つが生徒や教員を育てる。インクルーシブ教育の推進に当たるような研修を今後も行って欲しい また高校での避難訓練も重要。継続して取り組んで欲しい。

働き方改革については業務量削減に管理職が尽力している。業務アシスタントを利用し仕事量の軽減に役立ててもらいたい。

Q 研修の成果はどうだったか。また危機管理マニュアルの見直しについては行われたのか。

A インクルーシブの研修会は、これから実施する。危機管理マニュアルは 4 月に県に提出するものを現在まとめている。

<委員より>

高校生は明るく元気よく挨拶してくれる のびのびと過ごしている様子が伺える

・授業改善について

熱心に取り組んでいる様子に感銘を受けている。UD の意識のもとで授業を作ることは、すべての生徒にとってわかりやすく、学びが広がる。ICT 機器を活用した授業と共にバランスをとりながら体験型の学習も行うことが大事だと感じる。

<委員より>

・生徒指導支援について

交通安全に関わる講習を半年に 1 回程度実施してもらいたい。PTA としても学年委員が学校と連携

しながら交通安全に関する取り組みに協力していきたいと考えている。

→(職員より)法改正もあり普段以上の声かけ、警察に来校してもらうことやスケアードストレイト研修(スタントマンを通じ事故の恐ろしさを視覚的に理解する)も考えている。新入生に関しては説明会の段階で注意を促す。

<委員より>

- ・「選択理論」(良い人間関係を築くため自らの行動を選択する方法論)

7つの身に付けたい習慣が生徒と良い関係性を持つことに繋がる。

<1 傾聴する 2 支援する 3 励ます 4 尊敬する 5 信頼する 6 受容する 7 意見の違いについて交渉する>

- ・「サーバントリーダーシップ」(リーダーが上に立つのではなく下から支えながら導くこと)

サーバントリーダーシップ論と授業のあり方は通じるものがある。

インクルーシブ教育を進めるために、このサーバントリーダーシップの考え方が根底にあり、教職員が7つの習慣を身に付け、子供たちが学校に行きたくなる良い循環をしていく。綾瀬高校はおそらくそれができていると考えます。校長、副校長の在り方がサーバントリーダーシップに当たっていると思う。

今後も職員や生徒の話をよく聞き協議しながら学校運営していただきたい。